

「現代都市文化論演習 2009」 期末筆記試験

氏名 _____

1. 以下の文章中の空所に正しい語句を補いなさい。

- 1) 本「現代都市文化論」における「文化」の定義は、次の、レイモンド・ウィリアムスの定義を参考に行っている。

「文化の定義には3つの範疇がある。第1に、文化を「理想」と考える範疇がある。ここでは、文化は、ある絶対のあるいは普遍的な価値に基づく、人間の完成された状態、あるいは、完成に至る過程である。… 第2に、文化を「記録」と考える範疇がある。ここでは、文化は知性と想像力を働かせて作られたものの集まりであり、細かなところまで、人間の思考や体験が多様な形で記録されているものである。… 第3に、文化の「社会的な」定義がある。この定義では、文化は、特定の生活の仕方の記述である。特定の生活の仕方は、ある種の意味と価値とを芸術と学問の中だけでなく、諸制度や日常的行動の中にも表現する。… この分析は、生活の仕方の中にある要素で、他の2つの定義に従う者には全く『文化』ではないもの、たとえば生産の組織、家族の構造、諸々の社会関係を表現もしくは規定している諸制度の構造、その社会の構成員がコミュニケーションする時の独自の形式、の分析をも含んでいる。」

この文章内で示された「文化」の3範疇を、文中の語を用いて書きなさい。

ただし、「理想」と「記録」の2語は使ってはいけない。

① _____ ② _____ ③ _____

- 2) 本「都市文化論」の1つの重要な研究テーマは「持続的地域社会活性化」である。本研究では、地域社会内の「コミュニティ」を _____ と名づけ、その活性化の方法を考察する。活性化を① _____ の発展 ② _____ 人口の増大 ③ _____ 度の向上【政治 交流 文化 福祉 科学 アメニティ 経済 観光 エコロジー】に分類して把握するが、現在の社会状況の中で、注目されつつあるのが、【① ② ③】の _____ である。

- 3) 20世紀の初頭、自然界を支配する法則を探求する _____ 科学に対して、社会と人間を研究する科学である _____ 科学を成立させようと努力した人物の1人がマックス・ウェーバーである。

ウェーバーの言う「方法論」とは、単なる「社会調査」や「統計処理」という研究の手段ではなく、研究領域が固有性を持ち、従って、その領域を扱う学問が個別の科学と

して成立することを保証する【 応用理論 基礎理論 基礎概念 応用手法 】群である。

彼は【 『理解社会学のカテゴリー』 『社会科学と社会政策の認識の「客観性」』 『社会学の基礎概念』 】で、行為する人間によって「究極において意図されたもの」と「社会における究極の価値」とが連関する可能性を論じ、その実例を【 『職業としての学問』 『古代ユダヤ教』 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 】の中で示した。

ウェーバーの研究方法を明確化したものが「理想型」である。これは、「思考によって構成（常に単純化）された事象の理想像」であり、その構成要素は、①_____
②_____③_____【 政治 経済 価値意識 文化 美 理想 価値理念 真理 歴史 未来予測 】である。

- 4) 1986年、当時のソビエト連邦ウクライナ地域にある原子力発電所で、ヨーロッパ中を震撼させる大事故が起きた。この事故は、全地球上に損害を及ぼす危険が存在することを人々に教えた。ちょうど同じ時期に、ウルリヒ・ベックの『_____社会』が出版され、たちまち評判となった。

リスクと危険の区別について、研究者たちは、一般的に、「ある決定による、未来の損害可能性」を「_____」と呼び、「決定によらない、未来の損害可能性」を「_____」と呼んでいる。

ベックは、「近代の産業社会は、テクノロジーを駆使して、人間生活を豊かで便利で安全なものにしてきたが、その過程で副作用も生み出し、それが人間生活を密かに蝕んでいる」と主張する。この、人間社会にとって有益なものが、同時に人間社会に損害をもたらしうる、という構図を、ベックは「_____性」と呼ぶ。

また、経済の発展によって実現した福祉制度の充実と教育水準の向上は、伝統的階級の規定力と拘束力を弱め、その結果、市民の1人1人が自分の人生・生活を自分の手で組み立てる必要性が高まった。この現象をベックは「_____化」と名づける。

一方、「現在の法律は、政治システム内での行動範囲を制限しているので、政治システムの外部で政治参加の要求を新しい政治文化の形式（住民運動、社会運動）で生じさせる」とベックは述べるが、彼はこうした運動を「_____政治」と呼び、新しい集団形成の可能性をそこに見ている。

- 5) 「まちづくり」という語が登場する以前には、「_____計画」という用語が広く

用いられていた。「_____計画」とは、都市計画法に則り行政主導で遂行される、どちらかといえば「まち」のハード面の改良に関する事業のことをいう。

一旦成功した「まちづくり」が、いつの間にか色褪せたものとなり、「まち」は再び活気を失ってしまうケースが発生している。この成功と失敗の反復を超越するのが、「まちづくり」の次の段階の営為である。この営為を「まち_____」と呼ぶ。

本研究では、「まち_____」の立脚点として、個々の具体的な取り組みの適否以前に、当事者の意識の問題が重要性をもつと考える。重要なのは、ある営為に取り組もうとする当事者間に、その営為に関連する「価値の_____」が存在するか否か、ということである。

「まち_____」のもう1つの前提条件が、極めて高い「_____」（使命感を伴う傾倒）を示す当事者の存在である。たとえば、『『まちの中心部に人を呼び込むこと』は、何を措いても実現すべきであり、それは他ならぬ自分が行わなければならない』と確信し、情熱的にその行為に傾倒する人物（たち）が集団の中に存在することが肝心なのである。

6) 本研究では、「まち_____」の営為を規定する概念を「中心概念」と「下位概念」に2分して捉える。

①中心概念

「_____性」：簡単に他人に頼らず、自己の力で取り組みを成就させようとする事。

「_____性」：集団や組織、また取り組みが、一定の期間で終わってしまうのではなく、存続し続けること。

②下位概念

「_____性」：際限ない拡大志向とは正反対の考え方。「大きさ」を目指さないという訳ではないが、地域拠点を誠実に守り続ける姿勢に特色がある。

「_____主義」：地域社会を重視すること。「中央集権」「一極集中」とは逆の発想。

「_____主義」：経済的利益を追求しながらも、経済的利益以外のもの（たとえば「アメニティ度の向上」）を最重要視すること。

「_____性」：取り組みに参加する各人がその個性を発揮すること。個々人の独自性が可視的であること。

2. 以下に示した映像事例からベスト5を選んで、選定理由と共に表に記入しなさい。

事 例			
富 良 野	シェフと農家	十勝	想いやりファーム
	ゆうふれ		食科技研
	オムカレー		畜大
	ごみのリサイクル		東洋農機
	石のリユース		紫竹ガーデン
	休耕地のリデュース		大草原
	自然塾		ホコテン
	棟梁と弟子	長沼	ファームステイ
	富良野塾		
	ガラス屋さん		

順位	事 例 名	選 定 理 由
1		
2		
3		
4		
5		